

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100870		
法人名	社会福祉法人 公風会		
事業所名(ユニット名)	フローレンス三寿 フラワーユニット		
所在地	和歌山市 向 180-1		
自己評価作成日	令和6年 8月15日	評価結果市町村受理日	令和6年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境作りを行い、入居者様個人の尊重と有する力にに応じ、自分らしい日常生活を送れるように努めている。また、コロナ禍以降も感染対策を継続し、毎月のイベントや定期的なクラブ活動を行う事で入居者様とともに楽しく、安心して暮らせる空間作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は幹線道路からほど近い住宅地に立地しているが、施設の周りは静かで過ごしやすい環境である。施設の方針で掃除がこまめに行われているため、築年数以上にきれいな状態が保たれている。感染対策による制限はあるが、毎月何らかのイベントを職員が企画・主催するようしており、その際は、利用者のリクエストを反映した手作りの行事食を提供し、利用者だけでなく職員も楽しみにしている。このイベントをはじめ、日々の生活において、利用者と職員が共に楽しんで生活するという共通認識が浸透しているようで、施設の雰囲気を明るいものにしていく。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内の見やすい場所に掲示し、互いに理念を共有し、実践につなげていける努力をしている。	理念は、開設当初に職員自ら作成したもので、事業所内に掲示するだけでなく、入職時に説明を行うことで職員間に浸透させている。特に、家庭的な環境で生活してもらうことを大切にしており、イベントの開催や手作りの食事会等にその思いが反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地区の自治会役員の方との関りやコロナ前は初詣やお花見に地区の神社に出かけていたが、現状は難しい。状況次第で地域の行事へ参加を検討したい。	以前は、小学校の職場体験や地域の夏祭りへの参加等を実施していたが、コロナ禍以降は、地域との付き合いが希薄になっている為、事業所としても今後の課題として捉えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者リーダー、実践者等の研修への参加を生かし、事業所内だけでなく、将来的に地域の方への認知症の理解を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度必ず開催し、自治会役員の方や地域包括支援センターの職員の方等と意見交換を行っている。現状は、郵送でのやり取りを行い、互いの意見交換を行っている。	現在は、2か月ごとに書面での開催となっている。書面を送付するだけでなく、事前に電話で連絡を行うことで、自治会の状況の報告等を受けることもある。	書面のみでの開催の場合、参加者からの意見等汲み取れていないことが危惧される。今後は、今以上にサービス向上に活かせるものにしていけるよう、感染対策に留意したうえで、集合形式での開催に切り換えることを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種届出等の提出などの必要な関係性の維持と、各種対応に応じた助言を受けるようにしている。	地域包括の職員とは運営推進会議の時に連絡し、現況報告や空床情報の提供等を行っている。運営についての質問等は必要時にいつでもできる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を整備し、身体拘束をしない事を前提にケアに取り組み、年間での勉強会と入職時に研修を行っている。	委員会や勉強会を定期的に開催することで、職員間で身体拘束をしないケアが浸透しており、実際の事例もない。指針やマニュアルも整備されており、虐待・ハラスメントに関する会議も毎月実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の事業所内の会議の中で話し合う機会を持ち、年間の勉強会等でも他の職員にも周知を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修への参加や、後見制度を活用される際には必要な支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学の際に施設内の説明やユニット内の雰囲気を感じてもらい、本人及び家族の不安を解消し、理解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情窓口を設置し、掲示している。	家族の面会時や、電話で状況報告等を行う際に、意見や要望がないか確認しており、その際に出た要望を運営に反映させた事例もある。コロナ禍以降、外出や外食の要望も多かったため、現在では自由に外出してもらえるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループ会議の内容をリーダー会議に持ち上げ、広く情報を共有できるように努めている。	職員間で自由に意見を述べる事が出来る関係性が築かれており、日常的に管理者を交えて意見交換が行われている。マニュアルの改正やイベントについての提案は反映できていることが多く、研修参加の要望にも可能な限り応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や頑張りを把握し、評価するとともにやりがいを感じる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修や勉強会への参加を随時行える環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設等と情報交換や交流する機会を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの意見を尊重し、安心していただける関係作りに努めている。また、家族にも意見を聞き、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際に可能な限り、家族の不安や困っている事は何かを把握しながら関係作りに努め、サービス開始まで、常に情報交換を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意見や状態を伺いながら、必要と思われるサービスを提案し、他職種と連携を取れる準備も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、一つの家族のような関係性を築いていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な状態の報告や、色々な事を家族と相談しながら、本人にとってより良い支援につながるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出等で関係が途切れない支援を行っていたが、コロナの関係で面会時間の設定や外出先等の確認を行っている。	時間や場所の制限はあるが、面会の機会は多くとれるよう支援している。家族だけでなく友人の面会も受け入れており、なるべく入居前の関係が途切れないよう支援している。また、家族との外出も自由に行うことが出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切にし、他者との関わりを持つように努めている。また、本人に役割を持ってもらえるように努め、互いに支え合える関係性を作る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も可能な限り、関係性を維持し、今後も状況に応じて相談や支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切に、意思表示が難しい場合は家族に以前の暮らし方等を聞くように努めている。	入居時に生活歴を確認し、趣味や生活スタイルを継続できるよう支援している。普段の生活の様子からも本人の意向を推測し、利用者に食事の後片付けや洗濯たたみなどの手伝いをしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や以前の暮らし方と生活環境やサービス利用の経過の把握に努めている。また、趣味や特技等の把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や残存機能を把握し、その人にあった暮らし方を日々考え、趣味や特技を生かせる環境を整えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や身体の状態を把握し、家族の意向、スタッフからの意見を聞きながら、その人らしく生活を過ごせるように介護計画を作成している。	基本的に6カ月ごとに介護計画の見直しを行っているが、状態変化や入退院時にはその都度見直している。本人や家族の意向、医療職も含めたスタッフの意見を集約し、職員会議でも話し合ったうえで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子を記録し、スタッフ間で情報を共有している。また、業務中でも常に情報の共有を図るように声かけを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を判断し、他部署とも連携を図り、出来る限りの支援を行うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの馴染みの地域で過ごせるように家族の協力も得ながら、支援に努めていたが、コロナ禍以降は難しい。少しずつ以前の暮らし方に近づけるように努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医がある方は、関係を継続していただける事もでき、新たに入居と同時に協力医療機関に変更される場合は支援を行っている。	主治医は本人の希望で選択することができるが、入居時に施設の担当医に変更される方が多い。担当医には24時間連絡可能で、定期的な往診もある。病院へ受診に行く必要がある場合は、家族の協力も得ながら施設職員が支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化を常に把握し、変化等あれば看護師に報告し、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者と情報交換を行い、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しているが、状態の変化とともに再度、家族と話し合いを行い、方針を共有し、支援します。	契約時に家族に説明を行ったうえで、終末期の希望を確認し、希望があれば施設での看取りも可能な体制となっており、実際に看取りを行った事例もある。看取りの際は、法人内の看護師の協力を得ることができる体制となっている。急変時のマニュアルも整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やその都度に説明し、初期対応を行っている。夜間はオンコール体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と施設内の勉強会を用いて随時、避難方法や連絡体制の確認を行っている。	年2回火災と地震を想定した避難訓練を実施し、災害研修や救急救命研修も実施している。食料や水などは5日分備蓄しており、避難誘導マニュアルも整備されている。BCPは現在作成中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人権を尊重し、声かけ等は常に職員同士で意識し、施設内での勉強会でも確認している。	年1回人権研修を実施したうえで、毎月の会議でも声かけの仕方について取り上げ、職員間で周知している。特に、排泄介助時の声かけは、周囲に配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご自身で選択してもらえるように、声かけや洗濯方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者優先を常に心がけ、スタッフ同士互いに協力できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から着られている着衣や、好きな物を持ってきていただいている。また、生活の中で必要な物があれば、家族に連絡し、相談している。散髪については、希望時に訪問理容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も利用者様と同じものを食べ、お互いに感想を言ったり、一緒に片付け等を行っている。	食事は、基本的に調理済みの物を仕入れ、提供する体制だが、月1回の行事食として、利用者の希望を聞き、手作りする機会を設けている。また、誕生会には手作りでケーキを作っている。食事前には、嚥下体操を兼ねて職員と一緒に歌を歌い、楽しい雰囲気ですべてできるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし、食べる様子等も常に観察し、声かけや介助を行い、その方に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声かけを行い、出来る範囲内はご自分でしていただき、介助が必要な方は介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを一人ひとり把握し、訴え時には都度、もしくは誘導を行っている。また、職員同士の情報の共有を行っている。	排泄表を用い、こまめに記録を取ることで利用者個々の排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。失禁が改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーションでの体操や施設内の散歩を行うとともに、排便間隔を把握し、対応している。また、受診時には主治医に相談し、薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、好きな入浴剤の使用や、お湯の温度もその都度対応しながら、楽しく入浴できるように努めている。	基本的に、週2回の入浴であるが、事業所としては毎日提供している為、その時の気分や状態に応じて柔軟に変更することができる。入浴する毎にお湯を入れ替えるので、清潔に気持ちよく入浴できる。寝たきり状態の方には、2人で介助することで、湯舟に浸かってもらうことができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態や状況をみながら、居室にて休んでもらう時間を作ったり、夜間に良く眠れるように体操や散歩をするなど、生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋を確認しながら、処方薬のチェックを行い、用法、用量を理解し、状態の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で役割を持ってもらえるように努め、趣味や特技を生かせる環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩やイベントでの外出、ドライブ等の時間を持てるように努めていたが、コロナ禍以降はドライブのみの実施になっている。	コロナ禍以降、外出の機会は減っているが、ドライブや施設の畑の野菜を見に行ったりと、外に出る機会をなるべく作るよう工夫している。家族による外出は、自由に行うことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の恐れもあるので、必要時には家族に持ってきていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいと訴えがある時は、話しを聞かせてもらい、必要ならば職員が電話をかけ、電話の取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節感が分かるような飾り付けを入居者様と一緒に作り、レクリエーション時は日付を確認している。	リビングは、清潔で明るく広いため、利用者が集まる居心地の良い空間となっている。職員と一緒に作った季節の飾りつけや写真も掲示されており、家庭的な雰囲気である。「清潔にする事」には特に気を付けており、隅々まできれいに掃除されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室で過ごしたり、リビングのソファに座り、日向ぼっこをしたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使っていた家具等や使い慣れた物をご自由に持ってきていただき、配置等も相談しながら居室作りをしている。	ベッドや家具・カーテンは、入居時に個人で用意することとなっており、好きな物を持ち込むことができる。自宅で使い慣れた家具等を持ち込む事で、利用者本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に使う物等は、置く場所を決めておく事でご自分で出来る方は声かけ等で「できること」「わかること」が出来る環境作りに努めている。		